

なんだか  
使いにくい

使い方が、  
よく分からない

## こんなモノありませんか？

つくばには、ユーザーである住民・高齢者の皆さんが参加して、誰にとっても「使いやすい」ものを考え研究するユニークな「みんなの使いやすさラボ（みんなラボ）」というしくみがあります。創設者であり代表者の原田悦子氏をお招きし、お話いただきます。

参加  
無料

日時：令和元年 **10月17日 木** 14:10～15:40  
場所：松本市中央公民館（Mウィング）4階 4-3  
（第9回世界健康首都会議のセミナーとして開催）

## ユーザーと共に創りあげる「使いやすさ」と生活者視点 ～つくば型リビングラボ・みんなラボの挑戦～

講師：みんなの使いやすさラボ（みんなラボ）代表者  
筑波大学 人間系(心理学域) 教授



みんなの使いやすさラボ  
Center for Usability and Aging Research

原田悦子氏

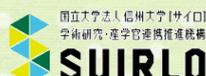


みんなラボは、2011年設立以来、スマートスピーカーやキャッシュレス決済など最新技術から牛乳のパッケージなど生活用品まで、様々な商品・サービスの「使いやすさ」について徹底的に語り合う「みんなラボカフェ」を毎月開催しています。また、各種家電や出入国顔認証システム、在宅用人工呼吸器まで、多様なモノの使いやすさ検証実験をおこなってきています。

【お問合せ先】

信州メディカル産業振興会事務局  
信州大学 学術研究・産学官連携推進機構 URA室  
TEL: 0263-37-3421 FAX: 0263-37-3425  
mail: smia@shinshu-u.ac.jp

主催：



協力：



信州リビング・ラボ

在宅医療・介護まわりの医療機器や介護用品の“使いにくい”  
“分からない”などの「困った💧」を住民アイデアで解決する

# 住民参加型の 医工連携ものづくり

松本発



## はじまっています！

皆さんの「困った」や「アイデア」で、患者さんやその家族に使いやすく、  
カッコよくて、みんなが元気になれるもの&デザインを作りましょう！

## 在宅医療・介護における製品やサービスの 皆さんの「困った💧」を募集中

困っている人	例：おばあちゃん、自分
困っていること 困っているもの	・在宅での療養・看護・介護などで患者さんや家族が困っていること ・自宅で使っている医療・介護に関する道具や機械で困っているもの など
発見者(仮名)・年齢	例：おじいちゃん子・28歳

※困ったのご連絡は、上記フォーム以外の自由書式でも大丈夫です。ただし、個人的な情報は記載しないでください。